

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年9月17日）

4月以降続けてきた、ガレキ撤去を中心とした「定期便」の活動が8月31日で終了し、これからは、いわば「不定期便」として、交流活動にウェットを置いた活動が始まります。今回は、その1回目の活動として、「つくる・あそぶ・つながる 初秋の集い」が企画されました。具体的な内容としては、「ペットボトルロケットを作って飛ばそう!!」と「素敵な押し花を作ろう」が準備され、さらに急遽「嶽きみの振る舞い」も加わりました。また、今回の企画は、チーム北リアスも主催に加わっていただき、日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）の皆さんと一緒に活動することになっています。

定期便より1時間30分ほど遅い7時15分に弘前大学正門前を出発。高速道路を順調に野田村に向けて進んでいました。ところが、一戸ICと九戸ICの間で起きた事故のため、一戸ICで高速道路を降りることに。やむなく一般道に入り山道を進んでいったのですが、もう少しで峠を越えるというまさにその地点で、車高制限でトンネルを通過することが出来ず、引き返さざるを得ない状況に追い込まれます。予定では10時過ぎには野田村に着く予定でしたが、大幅に遅れてしまい、到着したのは11時30分頃でした。午前に予定していたピラ配り等の活動は断念せざるを得ませんでした。

到着後、チーム北リアスの野田村現地事務所でNVNADの皆さんと顔合わせをし、事務所を見学させていただいた後、「かまどのつきや」一緒に移動して昼食をいただきました。「かまどのつきや」の方からは、「ガレキ撤去が終わったからもう来てもらえないかと思ったけど、また来てもらってよかった」という声を掛けていただきました。このような形での交流もまた大切だなと感じた瞬間でした。今回も、おにぎりや焼き魚、卵焼きなどが入ったお弁当と、豆腐、そして甘いトマトを美味しくいただきました。



チーム北リアス事務所での顔合わせ



「かまどのつきや」での食事風景

予定では13時からペットボトルロケットを開始する予定でしたが、到着が遅くなった分開始時間が遅れてしまいました。しかも、活動開始と同時くらいに雨が降り始め、結局活

動終了まで止まないままでした。今回はハプニングの連続です。

今回の参加者は合計 33 名で、市民が 12 名、学生が 20 名、教員が 1 名、男女別では、男性が 15 名、女性が 18 名でした。特徴的なのは、初めての参加者が 17 名いたということです。活動の内容が今回から大きく変わったことが、初めての参加者が多かった要因かと思われまます。このチーム・オール弘前に、NVNAD の 10 名に加わってもらい、市民・学生・NVNAD が万遍なく入るように「ペットボトルロケット」班、「押し花」班、「嶽きみ」班に分け、それぞれの活動をスタートさせました。ペットボトルロケットは、弘前大学のボランティアサークル「SaBoTen」のメンバーを中心に、押し花の葉作りは、市民サークルの方々を中心に、そして嶽きみの振る舞いは NPO 法人「ECO リパブリック白神」の方を中心に活動に入ります。

「ペットボトルロケット」班は、中学校の玄関をお借りしてロケットを作成し、出来上がったロケットを、雨の中、子どもたちと一緒に飛ばしました。子どもたちは、最初のうちは付き添いのご家族の方の傍を離れず、恥ずかしがっていたようですが、徐々に夢中になってくれたようです。私が様子を見に行った時も、一心不乱に空気を入れ、ロケットが上手く飛ぶと喜んでボランティアスタッフとタッチをしている子どもたちの姿がありました。学生ボランティアからも、「子どもたちの笑顔が見られてよかった」という感想が聞かれました。



ペットボトルロケットの作成風景



ペットボトルロケットの発射風景

「押し花」班は、押し花を使った葉作りを、参加して下さった方と一緒に行いました。印象的だったのは、小学生の女の子が、何枚も何枚も作っていた姿でした。そのうちの数枚は、一緒に活動していた学生ボランティアにプレゼントしてくれたようです。学生も非常に喜んでいました。また、参加して下さった他の方々も、それぞれ市民・学生ボランティアと一緒に話をしながら、葉作りを楽しんでくれたようです。葉作りに参加した学生ボランティアから「こんなにボランティアが楽しんでいいのだろうか」という趣旨の感想がありましたが、ボランティアも一緒に楽しむことが重要ではないかと思ひます。



お話をしながら押し花の葉作り



「嶽きみ」調理中

「嶽きみ」班は、嶽きみを茹で上げ、仮設住宅にお住まいの方々にお配りしました。実は、中心になって活動していただいた ECO リパブリック白神の方も、ほとんど嶽きみを茹でた経験がなかったそうですが、市民ボランティアの中に詳しい方が数名いてくれたので、アドバイスをもらいながら何とか美味しく茹で上げることができていました。当初は、押し花の葉作りに参加して下さった方に振る舞うという予定でしたが、ほとんど人が集まらなかったため、急遽予定を変更し、仮設住宅を一軒一軒訪ねて配って回ったようです。

「ペットボトルロケット」「押し花」とともに、それぞれ 4～5 人と、参加者がかなり少ない状況でした。帰りのバスの中では、「参加者が少なくて残念だった」「もっといっぱい子どもたちが来て欲しかった」「もっと野田村の方たちと交流したかった」という感想が聞かれました。ただ、反対に「ペットボトルロケットの台数が限られていたので、子どもたちが少なかった分思う存分遊んでもらってよかった」「普段なら『葉は3枚まで』というように制限するが、今回はそのような制限をつける必要がなかったため、心置きなく作ってもらえてよかった」という声も聞かれました。確かに多くの方たちに来てもらえることも大事ですが、来てもらった方たちに満足して帰ってもらえることの方が重要ではないかと思えます。その意味では、少なかったとはいえ、参加した方々が思う存分楽しめてもらったのであれば、今回の活動は意味があったと言えるのではないのでしょうか。

今回参加者が少なかったことで、ある意味ホッとしたという面もあります。現在野田村ではいろいろなイベントが開かれています、「せっかくイベントを開いてくれるのだから…」と無理をして参加されているのではないかという懸念、そしてそのイベントで野田村の皆さんが疲れてしまうのではないかという危惧を、今回の活動に参加する前には抱いていました。しかし、今回参加者が少なかったことによって、それぞれがそれぞれの生活を優先されていて、参加して下さる方々は、その活動を本当に楽しみに思っただけで参加して下さっているのだということを知ることができました。私たちの活動は、より多くの人を集めることに意味があるのではなく、野田村の皆さんにチーム・オール弘前の活動が継続しているということを知ってもらい、それを心の拠り所にしていただくことに本来

の趣旨があるのだと思います。その点を再確認する必要があるのではないのでしょうか。

今回の活動のもう一つの大きな意義は、NVNAD の皆さんと交流が出来たことです。到着が遅れた影響と、もともとの連絡の齟齬があったため、今回は、意見交換の場を設けることが出来ず、ただボランティア活動を一緒に行うことによる交流に止まりました。しかし、帰りのバスの中の感想でも「一回限りの交流に終わらせないで、この繋がりを維持していけたらいいなと思いました」という声が聞かれたように、今後も、野田村を中心に置いた関西の皆さんとの交流を、継続的に、積極的に行っていければいいのではないかと思います。

初の交流にウェートを置いた活動は、到着時間の遅れや雨などのハプニングもありましたが、全体的に事務局の意思疎通が不十分で不手際が多かったように思います。活動内容を事前にもう少し詳細にお知らせしたり、一緒に活動する団体との意思疎通を十分に図ったり、到着後の事務局内の役割のシミュレーションなどももう少し綿密に行ったりする必要がありますように感じました。これまでは、野田村に到着してからは、災害復興ボランティアセンターの指示で活動をしてきましたが、これからは野田村に着いてからも事務局が中心となって活動しなければなりません。その点も踏まえた準備が必要かと思えます。

野田村社会福祉協議会と社共が運営している野田村災害復興ボランティアセンターのブログ (<http://blog.canpan.info/nodashakyo-vc/>) を拝見すると、「サロン活動」というものが社会福祉協議会を中心に始まったようです。また、仮設住宅での生活の様子や村内の様子も併せて見ると、野田村の皆さんも自らの足で次の一歩に向けて歩み始めているように感じました。もちろん、まだまだ長期的な視野に立った活動が必要だとは思いますが、今回のように私たちが準備をして企画する活動から、野田村の皆さんが準備をした企画に、私たちがお手伝いに伺うという活動に、徐々にシフトしていくことも必要かと思われます。

いずれにしても、いろいろと課題も残り、考えることも多くありましたが、また実りも多かった「不定期便」第1回目の活動でした。

(担当 平野 潔)